



ぶんとすプロジェクト

甲南大学 文学部 2021年度 活動報告



「ぶんとすプロジェクト」とは「ぶん」学部の多様な学びを「たす」プロジェクトです。ここにピックアップされた活動レポートから、文学部の活気あふれる1年間の活動を振り返ることができます。興味を持った話題があれば、二次元バーコードからさらに詳しい取り組みの報告にアクセスしてみてください。



2021年12月13日

英語英米文学科

Department of English Literature and Language

カナダで活躍する卒業生からのメッセージ「英語サミット」

片岡さんは甲南大学卒業後、ヴィクトリア大学大学院に進学し、修士号を取得して、現在は同大学の教育環境を技術的に支える部署でマネージャーとして活躍されています。大学院の修了に6年間を要したり、就職活動がスムーズにいかなかったりと、海外で苦労を重ねてきた片岡さんですが、あとあと振り返ると、挫折は人として成長する大切な機会であったと言えます。

カナダから
登場してくれた
片岡さん



▲詳しくはこちら



2022年1月17日

人間科学科

Department of Human Sciences

広島フィールドトリップ

ゼミで広島市を訪れ、平和公園・原爆資料館周辺で、これからの平和を考えるフィールドトリップを実施しました。NPO法人Peace Culture Villageの大学生スタッフとともに、ツアーやワークショップを通じてお互いの考えを深めました。実際に現地を足で運んで考察することの大切さや、新しい友人を作ることの素晴らしさを実感できる、充実した1日でした。

平和公園・
原爆資料館周辺で
平和を考える
フィールドトリップ



▲詳しくはこちら



2022年1月25日

社会学科

Department of Sociology

日米の地域メディアから番組制作(動画とラジオ)!

発展研究FIIでは、地域メディアの機能と役割をグループワークによる番組制作を通して学びます。神戸市東灘区を拠点とする「ひがしなだコミュニティメディア」の動画配信番組と米国のコミュニティラジオ局WRFUの日本語番組を制作しました。映像制作(発展研究F1)に関する記事(甲南Ch・文学部・2021年9月8日)もご覧ください。

番組制作中



▲詳しくはこちら



歴史文化学科

Department of History and Culture

歴史文化学科のいまを知るWEBサイト

「歴らぼのWEBサイト」では学科の様々な活動を紹介しています。ここでは、講義の内容や様子、ゼミなどで実施する巡検、学生や教員らによる活動など、多くの記事を掲載しています。それらは「歴らぼ通信」としても定期的に発行され、現在、15号となりました。サイトは随時更新されるので、学科の最新情報を知ることができます。みなさんもぜひご覧ください!

通信は歴史図書室前
(10号館5階)で配付中



▲詳しくはこちら



2021年4月20日

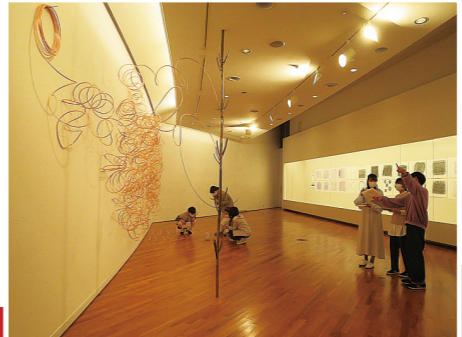
人間科学科

Department of Human Sciences

ゼミで現代アートの鑑賞ワークショップ

芦屋市立美術館での展覧会「植松奎二 みえないものへ、触れる方法——直観」を鑑賞し、ゼミのメンバー25名で作品の意味を考えるワークショップを行いました。いくつかのテーマについてグループで考え、美術館の学芸員の先生の前で発表して講評をいただきました。ワークシートはアーティストご本人に届けていただき、返信のメッセージもいただきました。

コロナ対策に
注意しながら
展示室でグループワーク



▲詳しくはこちら



2021年6月17日

英語英米文学科

Department of English Literature and Language

秋元ゼミで「オープンセミナー inviting 新元良一さん」を開催しました

NYを拠点に、作家として、また英米作家のインタビュアーとして、長年にわたって活躍されてきた新元良一さんをZoomでお迎えしてお話を聞きました。神戸で生まれ育った新元さんが、アメリカに惚れ込み、一旦日本に戻られたあとにNYに惹きつけられるように戻ったのはなぜなのか、作家のインタビューをする上で大事なことはなんなのか、とても興味深いお話を聞くことができました。

ニューヨーク在住の
作家で英米の作家への
インタビュアーとしても名高い
新元良一さん



▲詳しくはこちら

03

2021年7月09日



社会学科

Department of Sociology

「トイレマップ」を作成しました!

私たち社会学科関ゼミ3回生11名は、2回生後期よりジェンダー問題などを取り扱った本を読み、ディスカッションを重ねてきました。3回生からは、性的マイノリティの方が抱える問題について考え、学内の制度や設備を検討してきました。その結果、私たちは「多目的トイレ」を中心に、岡本キャンパスのトイレマップを作成することにしました。

担当した成果物と一緒に記念撮影



▲詳しくはこちらから

04

2021年7月29日



社会学科

Department of Sociology

オンラインを活用したフィールドワーク

2021年度「フィールドワーク研究」調査レポートタイトルのワードクラウド



▲詳しくはこちらから

「フィールドワーク研究」(2年次)は、社会調査士資格取得カリキュラムにも含まれています。授業ではインタビュー法や観察法など質的調査法を学び、それぞれが実際にフィールドワークを行い調査レポートを作成します。コロナ禍においてはどのように現場と関わることができるのか。学生たちは、どんなテーマを選び調査法を工夫したのでしょうか。

07

2021年11月04日



英語英米文学科

Department of English Literature and Language

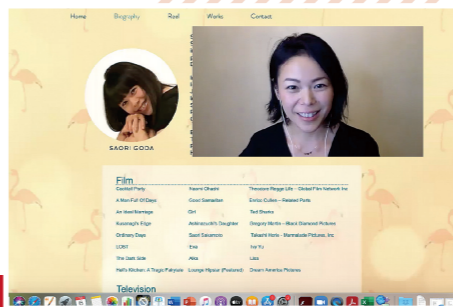
俳優 合田さおりさんを招いてのオープンセミナー開催

2006年に英語英米文学科を卒業されてNYで俳優活動をしている合田さおりさんをオンラインでお迎えして、開催しました。現在のNYの新型コロナの状況から始まって、コロナ禍での俳優業やオーディションの形態がどう変わったか、NYでの生活、英語の学習やキャリアの作り方といった現役の学生へのアドバイスまで多岐にわたるお話をしてくれました。

NYで俳優活動をしている合田さおりさん



▲詳しくはこちらから



08

2021年11月08日



社会学科

Department of Sociology

社会学科の学生はどんなテーマで卒業論文を書いているのか

卒業論文タイトルのワードクラウド



▲詳しくはこちらから

データ分析を行う授業のなかで社会学科の学生が提出した卒業論文のタイトルにはどのような言葉がよく使われているのかを集計した結果がこの図です。実際に分析した学生からは、「スポーツやSNS、メディア、コミュニティ、観光、アイドル、ファンなどとても多様で、研究分野が広い社会学科らしさが出ている」といった感想が寄せられました。

05

2021年10月23日



歴史文化学科

Department of History and Culture

大学の学びを広げるー白鶴プロジェクト(白鶴美術館と甲南大学の連携事業)

「博物館学芸員の仕事を学ぶ」をコンセプトにした学生の自主的な活動です。①来館者への教育プログラム(ワークショップ)の運用を担い、②美術作品の修復工房などで研修・取材を行い、白鶴美術館の展示に関わっています。2021年度は、鋳金具の製作所と修復工房を訪問し、動画作成や教育プログラムの開発にも携わりました。

鋳金具製作の過程を取材・体験する学生



▲詳しくはこちらから

06

2021年11月04日



人間科学科

Department of Human Sciences

TOTO フィールドワーク

TOTO 株式会社を訪問しました!



▲詳しくはこちらから

西ゼミでは、2021年度前期の活動として甲南大学におけるトイレ施設の状況を調査し、性や障害にかかわらず皆が気持ちよく使えるトイレに近づけていくための方法を話し合いました。さらに、そこで感じたことや疑問に思ったことをもっと広い視点から深めようと、TOTO株式会社さんにご協力いただき、TOTOテクニカルセンターでフィールドワークを実施しました。

09

2021年11月27日



社会学科

Department of Sociology

人権啓発動画をつくる!(大阪府の共同研究)

社会学科の有志学生5名が、大阪府の「令和3年度インターネット上の人権侵害の解消推進事業(共同研究)」に参加しました。関西の6大学が独自に研究を進める中で、甲南大学では「性的マイノリティの人権問題」も含めた啓発動画をつくることに決めました。感染拡大状況を考慮しながら、脚本、配役、撮影場所などを検討し、夏休みの間に集中して撮影を終えました。

岡本キャンパスと白川台キャンパスでの撮影



▲詳しくはこちらから



10

2021年12月02日



日本語日本文学科

Department of Japanese Literature and Language

中学校で実習を行いました

神戸市立本山南中学校で学校現場実習



▲詳しくはこちらから

中学校、高等学校の国語教諭を目指す学生は、1年生から教職課程の単位を修得し、4年生の前期に教育実習に行きます。教育実習を終えた10名が、教職課程の総まとめの科目である「教職実践演習」で学校現場実習に参加しました。実習を通し、めりめりのある授業展開、板書とICTの使い分け、生徒全員がチャレンジできる雰囲気作りの重要性を学びました。